

# まちのキラリびと

敦賀海洋少年団は、昭和26年7月20日に登録第26号の団として結成され、今年70周年を迎えました



敦賀海洋少年団  
指導員 田近 哲康さん

## 海に学び、海に親しみ、海に鍛える

海洋少年団は、海を通して、海に親しみ、学ぶことで、団体生活や社会生活に必要な資質を養い、健全な青少年を育成することを目的とした団体です。現在、海洋少年団は全国に91団、県内では敦賀のほか三国と小浜にあります。

敦賀の団員は、小1から高3までの16人で、約10人の指導員が企画運営・訓練指導などを行っており、和気あいあいとした雰囲気です。

海洋少年団では、子ども達に様々な体験をもらっています。月3回程度実施している訓練では、手旗信号やロープワーク、団体行動やカッター漕艇などを行っているほか、海岸清掃、募金活動も行い、奉仕の心を養っています。また、レクリエーションとして、キャンプや宿泊合宿、クリスマス会など幅広い分野のイベントを実施しています。

訓練の成果を試す場として2年に一度全国大会が開かれており、令和元年度の第54回大会では、全国総合3位という栄光に輝くなど、小さいながら団結力・チーム力を兼ね備えた団となっています。

このように、やり遂げる力やリーダーシップを育みながら、「体験の幅を広げる活動・学校で学べない体験」を続けています。昔から港とともに栄えてきた「港町つるが」にふさわしい活動です。少しでも興味を持っていただけたら、ぜひ見学にお越しください。



- ▲ 全国大会記念写真
- ▶ カッター漕艇
- ◀ 手旗信号訓練



敦賀海洋少年団HP

このように、やり遂げる力やリーダー

## まちの宝を発見!

# つるが歴史遺産



港町のお正月を盛り上げます

案内人 学芸員 笠原 朋与

国指定無形民俗文化財 (昭和61年1月14日指定)

## 敦賀西町の綱引き



▲綱を作る様子



## 綱を引いて豊穣を占い、新年を祝う

敦賀でお正月の行事というところ、「西町の綱引き」を最初に思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか。綱引きは、夷子大黒会館前の通りで1月の第3日曜日に行われ、地域の住人でなくても誰もが参加できます。(令和4年は新型コロナウイルスの影響により中止)

軒の高さに吊るされた大綱が降ろされると同時に、人々が一斉に飛びついて綱を引く様子は活気と迫力があり、お正月のおめでたい雰囲気を感じてます。現在でも夷子方(東)が勝れば大漁、大黒方(西)が勝れば豊作と言われるように、もともとは漁業と農業を生業とする西町の住民たちが夷子・大黒の二手に分かれ、1年の豊作豊漁を占う行事で、夷子が勝つと天満神社内の恵比須神社まで、大黒が勝つと三島町の八幡神社まで綱を引きこんだと伝えられます。

綱引きに使う綱は毎年12月末から伝承協議会の方々を中心に手作業で作られています。綱の材料となるわらを結んでいき、長さ55メートル、直径25センチメートルの綱に仕立て、引きやすいように補助綱を付けて完成です。こうして出来上がった総重量150キログラムの綱を、家の軒の高さに吊り上げ、綱引き当日を迎えます。残念ながら2年連続で綱引き行事は中止となりましたが、前回は夷子大黒衣装の展示会を行うなど、伝承協議会をはじめ地元の方々の手で工夫され継承されています。

## 広報担当者のつがやき

先月末、家族で市外に出かけた際、「紫カリフラワー」のラベルが貼られた野菜を買いました。しかし、中身は加熱すると緑色に戻る?プロッコリー。小2の娘からは「どう見てもプロッコリーやん。ちゃんと見たら分かるし」と言われ、全く言い返せませんでした。こんなに早く、子どもに論破される日が来るとは・・・(K)

1月から新庁舎へ引っ越しということで、書類や物品などの整理に追われています。現庁舎が竣工して約50年間、歴代の広報担当者が撮りためた写真や映像、何に使っていたのかよく分からない物など、とにかく膨大な量があります。無事に引っ越しを終えられるのか心配ですが、きれいな新庁舎で働くのが楽しみです。(M)